

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2016. 8.19(fri)・20(sat)
全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM
2016



Q. 「E.FORUM」とは？

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

研究科長よりご挨拶



今年も恒例の夏の E.FORUM を行います。教育学研究を進める上で重要なことは、理論と実践とが車の両輪のように調和ある安定的な関係を維持するということです。また今日大学の重要な役割の一つに、社会貢献が位置づけられています。E.FORUM は、2006 年の創設以来、本研究科のこうした理念の実現を担う重要な仕組みとして大きな役割を果たして参りました。ご参加頂きました皆様方におかれましては、本年度も多くの学びのあられることを切に願っております。

高見 茂(京都大学大学院教育学研究科長)

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では 2006 年度に E.FORUM を設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。2012 年度からは、教師をめざす学生たちにも積極的な参加を呼び掛け、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の日程で研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

全国スクールリーダー育成研修

日 程： 2016 年 8 月 19 日(金)・20 日(土)

対 象： 全国からの希望者 100 名程度(先着順)

会 場： 京都大学吉田キャンパス 総合研究3号館 ほか

(詳細は裏面の地図をご覧ください)

※1 日目または 2 日目のみの参加も受け付けています。

お申込方法：

申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、7 月 31 日(日)までに、メールまたは FAX で事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000 円)が必要です。また、お弁当(1 個 1,000 円)をご用意できます。

なお、懇親会費とお弁当代は、当日受付にてお支払いください。

参加者の皆様へお願い

昨年度に「京都大学教育学研究科・教育学部基金」が設立され、E.FORUM の開催についても一部当該基金から支出されることになりました。

このため本年度は参加費無料としますが、この基金は皆さまからの寄付により支えられているものであることから、今後の継続的な実施のためにも当該基金へのご協力を何卒よろしく願いたします。

ご寄付の方法：

別添「教育学研究科・教育学部基金ご協力」の所定用紙にて振込をお願いします。



お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033

E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(申込用紙はホームページからもダウンロード出来ます。)

URL: <http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>

E.FORUM

検索

プログラム

2016年8月19日(金)

会場:総合研究3号館 講義室(共通 155)ほか


9:00 - 9:30	受付		(司会)
9:30 - 9:45	オープニング		西岡 加名恵
10:00-12:00	分科会 A or B	分科会 A 「カリキュラム設計入門 ——パフォーマンス課題づくり」 講師:西岡 加名恵	分科会 B1 「若い教師に伝えたい 授業づくりの発想」 講師:石井 英真
12:00-13:30	昼休み(お弁当※ 1,000 円)		
13:30-15:00	分科会 A or B	分科会 A (午前の続き) 「カリキュラム設計入門 ——パフォーマンス課題づくり」 講師:西岡 加名恵	分科会 B2 「街づくりと学校づくり ——アーキテクチャ論から考える教育」 講師:山名 淳
15:15-18:00	シンポジウム 「高等学校におけるカリキュラム改善 ——探究的な学習を中心に」	<シンポジスト> 渡邊 久暢 先生 (福井県立若狭高等学校・教諭) 西條 哲司 先生 (和歌山県立和歌山高等学校・教諭) 岡本 真澄 先生 (大阪府教育センター・主任指導主事)	
18:30-20:30	懇親会※ (会場:京大時計台前カフェレストラン「カンフォーラ」 参加費 3,000 円)		

2016年8月20日(土)

会場:総合研究3号館 講義室(共通 155)ほか

9:30-10:00	受付	(講師)	(司会)
10:00-10:20	オープニング(教育学研究科長挨拶など)		
10:30-12:00	講演 「米国の高大接続プログラム ——AP(Advanced Placement)プログラムに注目して」	高見 茂	服部 憲児
12:00-13:30	昼休み(お弁当※ 1,000 円)		
13:30-17:00	シンポジウム&教科等別分科会 「E.FORUM スタンドの再検討に向けて」	西岡 加名恵 ほか	
17:15-17:30	クロージング		


※お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日、受付にて代金をお支払い下さい。
キャンセルされる場合は7月31日(日)までにご連絡をお願い致します。



高校での教務課
学力向上の担当を
していますが、幅広
い視野をもって、生
徒に本当の学力をつ
けさせる指導という
ものを知る、非常に
勉強となる研修で
した。
(高等学校教諭)

具体的な事例をもとにお話してくだ
さったので、とても理解しやすかったで
すし、自分の経験と照らし合わせなが
ら考えることができました。また、学校
現場で生かすためのお話もあり、役に
立ちそうだと思います。(大学院生)

昨年度の受講者の声
(写真は昨年度の研修の様子です)



どんどん変化し
ていく教育現場
で、しっかりと今
を見極めて、対応
するために学び
を深め、課題を共
有することができ
ました。
(教育センター)

10:00-12:00/13:30-15:00

総合研究 3 号館
講義室(共通 155)

分科会 A 「カリキュラム設計入門
——パフォーマンス課題づくり」

次期学習指導要領改訂に向けた議論においては、思考力・判断力・表現力などの「資質・能力」を評価・育成するために、パフォーマンス評価の活用が推奨されています。本セッションでは、典型的なパフォーマンス評価の方法であるパフォーマンス課題の作り方を体験的に学んでいただくとともに、ルーブリック(評価指標)の作成方法についてもご説明いたします。

※ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立つような資料をご持参ください(教員研修の計画づくりをしていただくことも可能です)。

【講師の主な著書】『教科と総合学習のカリキュラム設計』(単著、図書文化、2016年)、『新しい教育評価入門』(共編著、有斐閣、2015年)など。翻訳『理解をもたらすカリキュラム設計』(日本標準、2012年)も刊行。



にしおか かなえ
西岡 加名恵 准教授

専門は教育方法学(カリキュラム論・教育評価論)です。パフォーマンス評価の研究開発、学校におけるカリキュラム改善の進め方などに関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場となることを願っています。

10:00-12:00

総合研究 4 号館 講義室(共通 1)

分科会 B1 「若い教師に伝えたい授業づくりの発想」

都市部を中心に教師の世代交代が急速に進行しています。その中で、若手教師に授業づくりの基本的な技や考え方をどう傳承するかが課題となっています。本セッションでは、授業づくりの骨格となる思考のフレームを紹介するとともに、教材研究をどう進めるか、学習者のつまづきをどう読み解くかといった、授業づくりにおける基本的な考え方について、ワークショップ的な演習を通して学びます。また、「教科する(do a subject)」授業をキーワードに、授業づくりの今後の方向性についても説明します。

【講師の主な著書】『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』(単著、日本標準、2015年)、『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』(単著、東信堂、2015年)、『新しい教育評価入門』(共著、有斐閣、2015年)など。



いしい てるまさ
石井 英真 准教授

学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支えますものになることを願っています。

13:30-15:00

総合研究 4 号館 講義室(共通 1)

分科会 B2 「街づくりと学校づくり
——アーキテクチャ論から考える教育」

学校は教育を専門とする人間形成のための施設ですが、広い意味での人間形成は、当然のことながら、学校のなかで完結しているわけではありません。学校はその外部の環境とのいわばアンサンブルによって、子どもたちの人間形成に関与しています。本セッションでは、アーキテクチャ(=人間が生み出す構造)論をもとにして、「街づくりと学校づくり」と題して双方のつながりと課題について考えます。

【講師の主な著書】『夢幻のドイツ田園都市——教育共同体ヘレラウの挑戦』(単著、ミネルヴァ書房、2006年)、『キーワード 現代の教育学』(共著、東京大学出版会、2009年)、『ドイツ——「過去の克服」と人間形成』(共著、昭和堂、2011年)、『「もじゃペー」に〈しつけ〉を学ぶ』(単著、東京学芸大学出版会、2012年)、『人間形成と承認』(共編著、北大路書房、2014年)、『都市とアーキテクチャの教育思想』(単著、勁草書房、2015年)など。



やまな じゅん
山名 淳 准教授

教育哲学、教育思想史の研究に取り組んでいます。教育を通常とは別の角度で眺めてみることによって、現状の問題点と新たな展望を示すことを目指しています。

15:15-18:00

総合研究3号館 講義室(共通 155)

シンポジウム

「高等学校におけるカリキュラム改善——探究的な学習を中心に」

アクティブ・ラーニングや入試改革を推進する政策動向の影響もあり、今、高等学校が大きな改革期をむかえています。また、それぞれの生徒に意義深い学びを提供し、学ぶ意欲を向上させるという観点からも、新たな価値を創造する探究的な学習がますます重要なものとして注目されています。

本シンポジウムでは、地域にねざした課題設定能力の育成に取り組んでおられる福井県立若狭高等学校、演劇的手法を活かして生徒たちのコミュニケーション力の育成を図っておられる和歌山県立和歌山高等学校の先生方から、カリキュラム改善を具体的にどのように進めておられるかについて、ご報告いただきます。また、多様な高等学校が授業やカリキュラムの改善を進めていく上で教育委員会がどのような役割を果たしうるのかを探るため、大阪府教育センターの取り組みについてご紹介いただきます。

【報告】

- 「課題設定能力の育成を目指す指導と評価の実際」
福井県立若狭高等学校・教諭 渡邊久暢先生
- 「高校における教員の職能成長と授業改善の可能性を探る
～演劇的手法を用いたコミュニケーション力の育成とその評価研究から～」
和歌山県立和歌山高等学校・教諭 西條哲司先生
- 「生徒の学びを起点とした授業改善とカリキュラム開発～教育センターとして、どう支援するか～」
大阪府教育センター・主任指導主事 岡本真澄先生

【司会】 教育実践コラボレーション・センター長 桑原知子 教授/西岡加名恵 准教授

京都大学 OCW サイトのご紹介



高等学校における探究学習のあり方などについての動画を、下記でご覧いただけます。

(1) 2014 年度 E.FORUM 教育研究セミナーⅡ
「高大におけるカリキュラム改革を考える
——探究力育成の視点から」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/91>

(2) 2014 年度 E.FORUM 教師力アップ研修
「探究力をどう育成するか」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/92>

(3) 2015 年度 E.FORUM 教育研究セミナー
「高等学校における探究の評価」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/113>

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です)



教育現場にて、実際に生徒たちと接していると、本日拝聴したお話がとても納得できました。具体的に生徒の顔を思い浮かべながらお聴きしました。
(中学校教諭)

ここでの内容は学問的な裏付け要素が強いので、ついていくのは大変ですが、学びごたえがあります。
(高等学校教諭)

専門的(大学でしか聞けない)内容を丁寧にわかりやすくご講義いただき、改めて現場を浮かべながら聞くことは楽しかったです。
(中学校教諭)

内容が盛り沢山で遠くから自費で来ても満足感があります。認め合う温かな雰囲気があるので、また来たいかなと思います。
(中学校教諭)



10:30-12:00 総合研究3号館 講義室(共通 155)
 講演「米国の高大接続プログラム
 —AP(Advanced Placement)プログラムに注目して—

わが国の現下の高等教育政策は、高大接続をその柱の一つとして位置づけています。政府与党・文部科学省も様々な施策を検討しており、国際バカロレア(IB:International Baccalaureate)には、政治・行政過程においても教育現場においても高い関心が寄せられています。しかしプログラム展開のリソースの確保が難しく、現実に導入するとなるとハードルは相当高いものになります。本講演では、こうした問題点を克服できる高大接続プログラムの一つとして、AP(Advanced Placement)プログラムを取り上げ、その内容を検討します。それは、米国で1950年代半ばに始まり、今や全米公立高校生の3分の1以上が参加するまでに発展し、近隣東アジア諸国にまで普及・拡大しています。本年3月にニューヨークにあるAPプログラムの運営主体であるカレッジ・ボードを訪問し、最新の情報を収集しました。その内容も踏まえて報告します。

【講師の主な著書】

『教育法規スタートアップ』(編著、昭和堂、2016年)、『教職六法』(編著、協同出版、2016年)、『教育行政提要平成版』(編著、協同出版、2016年)



たかみ しげる
高見 茂 教授

専門は教育政策。教育資源調達が難しくなる中で、公財政の枠外の資源調達の仕組み・制度を中心に研究しています。英国の新しい学校運営の仕組みである「アカデミー政策」や、英国・米国で導入が始まったSIB(Social Impact Bond:社会貢献債)について研究しています。



E.FORUM Online (EFO) のご紹介

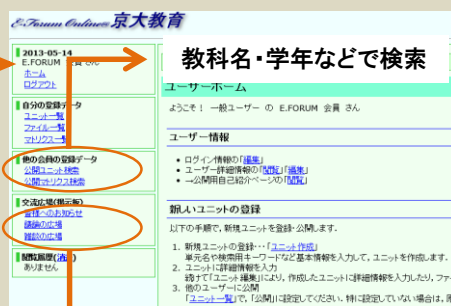
E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「E.FORUM Online(EFO)」を開設しています。EFO に蓄積された各種のデータ(単元指導計画、パフォーマンス課題やルーブリックなど)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。また、寄せられたご質問に対し、講師が回答するサービスも行っています。

「全国スクールリーダー育成研修」を受講された方は、EFO が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。

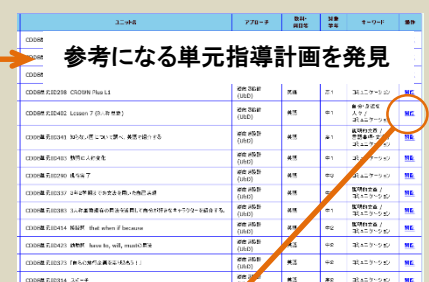
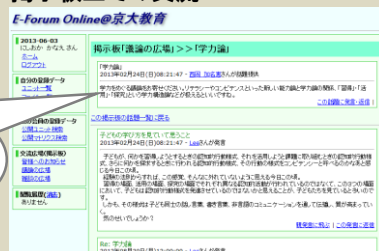


E.FORUM のホームページ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>

発言例:
 「unit67 に、今、授業でやっている課題について書き込みました。アドバイス・コメント等お願いします。」



掲示板での交流



「閲覧」をクリックすると、そのユニットのページが開きます。

単元指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

13:30-17:00

シンポジウム&教科等別分科会

「E.FORUM スタンドールの再検討に向けて」

E.FORUM では、参加者の皆さんが開発されたパフォーマンス課題の事例を集約し、広く実践の改善に役立てていただくため、2014年までに「E.FORUM スタンドール(第1次案)」をまとめました。「スタンドール」とは、社会的に共通理解された目標・評価基準です。「E.FORUM スタンドール(第1次案)」では、各教科における重点目標とは何かを探り、包括的な「本質的な問い」・「永続的理解」を提案するとともに、パフォーマンス課題を例示しています。

「資質・能力」の育成やアクティブ・ラーニングが重視される昨今、パフォーマンス課題にはますます注目が集まっています。このシンポジウム&教科等別分科会では、「E.FORUM スタンドール」をさらに改善していくための検討を行います。

※「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題といった用語について基礎から学びたい方には、8月19日(土)の分科会Aにご参加いただくか、または下記OCWを予め視聴されることをお勧めします。

シンポジウム(13:30-14:15)

西岡加名恵(京都大学大学院教育学研究科・准教授)ほか

教科等別分科会(14:30-17:00)

<p>【国語】 山本はるか 帝塚山学院大学・助教</p>	<p>【社会】 鋒山泰弘 追手門学院大学・教授</p>	<p>【算数・数学】 石井英真 京都大学大学院教育学研究科・准教授</p>	<p>【理科】 大貫守 京都大学大学院教育学研究科・院生、 日本学術振興会特別研究員</p>
<p>【音楽・美術】 小山英恵 鳴門教育大学・准教授</p>	<p>【保健体育】 徳島祐彌 京都大学大学院教育学研究科・院生、 日本学術振興会特別研究員</p>	<p>【技術・家庭】 【教師教育】ほか 北原琢也 京都大学教育学部・非常勤講師</p>	<p>【英語】 赤沢真世 大阪成蹊大学・准教授</p>

京都大学 OCW サイトのご紹介



パフォーマンス評価について説明している授業の動画と関連資料を、次のウェブページでご覧いただけます。

- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 I」(2014年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>
- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 II」(2013年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

「E.FORUM スタンドール第1次案」のご紹介



E.FORUM ウェブサイトの「研究成果のご紹介」→「E.FORUM スタンドール」から各教科の第1次案が閲覧・ダウンロードいただけます。

→ <http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/>

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



受付&メイン会場
総合研究3号館 講義室
(共通 155)

懇親会会場
カフェレストラン「カンフォーラ」

※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
 - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・みづ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配してくださいようお願いいたします。